

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2490100035		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	グループホーム くわなの宿		
所在地	桑名市新西方3丁目218 ウエルネス医療クリニック2階		
自己評価作成日	令和6年2月25日	評価結果市町提出日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

令和5年9月に萱町より現在の地に移転してきました。まだまだ、地域の行事や祭事などに疎く、自治会長様をはじめ自治会やご近所の方から一つずつ教えていただいている状況です。その中でも、地域清掃や子供たちが帰ってくる頃の散歩を兼ねたパトロールなど、私達が出来ることを少しずつ進めております。今後は同法人の学童パンの木などとも交流を増やしていき、お年寄りの底力、出来る事を奪うことなく、より地域の一員として生活できるようにという思いをグループホーム職員として欠かさないようにしていきたいと考えております。  
また、医療法人が母体で同じ建物にあるため、体調不良時の対応なども直ぐに対応出来る等、医療連携が今まで以上に確立でき、安心して暮らしていけるように体制を整えております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昨年9月に商業地にあるウエルネス医療クリニックの2階へ移転した。利用者のリロケーションダメージを無くす取り組みに尽力し、直接の馴染みである職員一人違わず一緒に移転できたためか利用者は職員より早く馴染んだという。移転して半年たった今、利用者は職員と和やかな雰囲気の中でゆったりと過ごしている。移転後も理念である「利用者の底力を活かした」活動の実践として、散歩を兼ねた下校時の児童の見守りや、子ども達の誕生日に合わせた食事やおやつ作りや恵方巻や餃子作り、また利用者と一緒に地区清掃や自治会主催の防災訓練に参加するなど利用者や地域や自治会を繋ぐ取り組みも始めており、家族会総会の再開催による一番の馴染みである家族との交流や近くの系列の学童との交流なども検討している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=2490100035-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=2490100035-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年3月27日

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に新人研修、グループ内研修、日々の業務の中で法人理念の「お年寄りの底力を活かそう」を常に確認し、実践につなげるよう努力している。	職員は、理念を実践に繋げるべく学童とおやつ作りや、散歩を兼ねての通学路での見守り、食器拭きや洗濯物畳み等、利用者一人ひとりの力に応じた底力を活かす工夫を職員間で発案し意欲を引き出して持てる力の維持や増進に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年9月に移転したばかりで、具体的なつながりは、これからだと考えているが、地域清掃や防災訓練等には利用者様と参加させていただいている。	9月に移転して間もないが、「何かあったときには地域に助けて貰える」よう地域と良好な関係を築くべく連合自治会主催の俳句・川柳会や、自主防災訓練に職員と一緒に参加するなど利用者と地域を繋げる取組を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、自治会行事への参加を積極的に行っていく。川柳会などには利用者の川柳を出させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	桑名市介護高齢課や、地域包括支援センター、民生委員の方や今年から家族にも改めて参加していただいている。特に移転後については、積極的にご参加いただけるよう働きかけている。	地域の自治会長や民生委員の出席もあり家族の出席者も多い。現状説明やヒヤリハット報告等を行い、出席者からは活発な意見や情報提供がある。また欠席者にも電話等で意見を聞きにサービス向上に迅速に反映させるよう取り組んでいる。	ホームや利用者の状況をより詳しく理解して貰うよう運営推進会議議事録を家族全員に送っている。更には、無記名での意見要望欄を設け家族が直接言いにくい意見などの回収等にも期待が寄せられる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に利用者の健康状態や暮らしの様子を伝えるとともに、参加できないご家族にもより詳しく具体的に伝えられるよう、書面や年2回の写真特集などで報告させていただいている。	移転の関係で介護高齢課には相談に乗って貰い密に連絡を取っていたが、担当者が代わり新たに協力関係の再構築中である。運営推進会議には市職員のほか包括からも出席があり、入居希望者に関して協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示し、また、その研修を行うようにしている。現在、看取りとなった方のベッド柵使用があるが、家族への説明、同意書、記録への記載、状況の検討など、ミニカンファレンスで確認するようにしている。	身体拘束適正化委員会を設け記録がある。また各職員がスマホ等でeラーニングで学習し記録している。看取りから回復し立位不安定な利用者には、家族の同意を取り4点柵を設け記録している。クリニックの2Fであり外部からの不審者の立ち入りを防ぐためにエレベータはロックしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、レポートやカンファレンス時に確認を行っている。また、常に資料は見れるところに置くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ内で権利擁護の研修や成年後見人制度の研修を開いたり、eラーニングなどを利用し周知するようにしている。また、新しい情報については外部の研修等にも参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、あらかじめ日時を決め十分な時間を取り説明ができるように努めている。利用者や家族の不安な点や疑問点を確認しながら、和やかな雰囲気を作るよう努めている。改定等については、書面や家族会にて説明させていただき、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、毎年一回総会を開いていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止以降、書面や来所いただいた際に家族に直接伺うこととしている。苦情相談については担当者を決めており、事業所内にも意見箱を置かせていただいている。	運営推進会議議事録や毎月の利用者の状況を個別に写真入りで配布した便りに関して、電話や家族来訪時に説明し意見や要望を聞いている。コロナ禍でも家族の要望を受けて駐車場で家族と一緒にお寿司を食べて貰うなど工夫して叶える支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案が運営に反映しやすいよう、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、管理者から定期的な面談を行っている。また、気づきシートなどで改善報告や提案を受け付けている。	「職員を大切にすることは利用者を大切にすること」との考えから職員の希望や意見を極力運営に反映させている。職員からは、「職場環境が良く働きやすい」との声が聞けた。遅番に関する問題も職員意見からの勤務時間の変更案で解決できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等級定義をもとに、各自の半期ごとの成果や課題について面談を行い、それぞれの職員のステップアップを支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に加え、外部の研修にも積極的に参加させている。また、介護実践者研修等も職員のキャリアや能力に応じて参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に参加し、他施設とのネットワークづくりを図っている。管理者や職員が外部研修に参加することで、同業者と交流する機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期の段階から、本人の気持ちや思いに耳を傾け、困っていることや不安な事、嬉しいことや嫌なことを職員全員で把握共有し、本人が安心できる環境や信頼できる環境を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談より、家族にとって不安に感じる事、困っていることや要望等をうかがい、本人・家族ともに支えていける環境を作るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の面談や入居時より、その方のニーズに合わせた支援をカンファレンスや申し送り等で検討し、提供できるよう努めている。月1回、グループ内でサービス調整会議を開き、適正なサービスが受けられるよう調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴や状態をアセスメントし、個々にあった役割を一緒に考えたり、町の慣習や歴史を話してもらったりしながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子を「くわなの宿たより」や来訪時にお伝えすることで、家族との関係を築けるよう努めている。半年に一度、普段の様子を収めた写真を6枚ほど送り安心していただけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、今まで使っていた生活用品や、写真を飾らせていただいている。また、現在では時間の制限はあるものの、ご家族や馴染みのある方との面会を再開させ、今までの関係が切れないよう努力している。	コロナ禍の面会制限時でも家族の顔を忘れないようにとお互いの顔が見える面会方法を工夫し実施していた。馴染みの場所や飲食店への家族との外出時は持ち物を準備したり、貰った年賀状などは家族に伝え馴染みの人と繋がり続けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を保てるよう、個々の状態、相性を見ながら席の配置をしたり、日常生活・行事を共に取り組むことでお互いに感謝されるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された後も、必要なコミュニケーションの維持に努め、必要に応じて本人、家族の状態や今後のサービス利用等における相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のさりげない言葉や希望を聞き流さないよう、また一人ひとりの思いを聞かせていただけるような話しやすい雰囲気づくりに努めている。	入居時のセンター方式で生活歴や大切に思っていること等を把握・共有したうえで、職員と1対1のゆっくりとした入浴時を本音が聞ける絶好の機会と捉え大切にしている。聞き取った思いは記録し共有して「その人らしい暮らし方」に向けてた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談を中心に、家族やケアマネジャーから今までの介護保険のサービス利用状況、その際の本人の気持ちや環境について耳を傾け、本人・家族とともに支えていける関係作りを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーを通して、今までの暮らしぶり、趣味や特技などを伺い、センター方式のシートの活用や閲覧をとおして、生活歴や大切にしているものを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで職員がご利用者様の現状と課題を事前に提出し、参加可能な家族も含め、ケアの見直しや気づきなどを話し合い、それをもとに、現状に応じた介護計画の作成に努めている。	家族とは年1回話し合い、医療関係者や利用者や介護記録に基づく職員の意見等を反映させ利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を作成し家族に再確認している。年度初めに家族に介護計画について分かり易く説明する予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌・申し送りノートなどを通して職員でケアの見直しや気づきなどを話し合い、それをもとに現状に応じた介護計画の作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じ、必要な物品を購入している。月に8回程度の医師の訪問診療の他、必要時には提携医療機関への受診を行っている。今後、グループ内の学童との交流を増やしていく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後、自治会行事への参加や地域の中で役割を担いながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	脳神経外科、消化器内科、耳鼻科、整形外科、総合診療等の訪問診療を実施している。また、歯科、眼科、皮膚科などには必要時に受診の支援を行っている。初心に関しては、主治医に紹介状を依頼し、受診時に持参している。	階下に母体の医療クリニックがあり、週1～2回内科の往診がある。外部医院との連携も取れており、同行支援時は結果を当日中に家族に報告し、家族同行時は初診時の紹介状や予約等の支援を行い受診結果の報告を家族から受け記録共有し適切な医療提供に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしているウエルネス医療クリニックの看護師に、日常的に健康状態の相談をしており、週に1回健康チェックに来てもらっている。施設にも週4回看護師が勤務しており、利用者が看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、必要な情報を協力医療機関等に伝え、連携を図っている。また、本人家族の希望を聞き、早期に退院できるように、医療機関との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎年、家族から重度化した際のアンケートをとり意向をうかがっている。利用者の状態変化に伴い、本人、家族、医師と連絡相談しながら支援を行っている。常時医療的管理下での支援が必要な場合は協力医療機関と連絡を取って、本人、家族、医師と共にその後の方針を話し合っている。情報と方針は職員間で共有し、支援に取り組んでいる。	入居時の説明及び毎年の「重度化した際」の意見の確認、更には状態変化の都度揺らぐ家族の気持ちに寄り添いながら柔軟に支援している。看取りマニュアルは、職員の目に留まりやすい所に貼ってあり、パートの看護師や階下の看護師とも連携し常に連絡が取れる環境があるので、職員も安心して支援に取り組むことができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人を中心にグループ内研修で心肺蘇生、緊急時対応訓練を行っている。施設では避難訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1回、消防署立会いの下、避難訓練を行っている。また、職員は桑名市の緊急メールを登録し、随時情報を入手するようにしている。新しい場所での災害訓練が出来ていないため、今年度中に行う予定。	消防署立会いの避難訓練を含め、火災、地震、夜間想定等の訓練を年3回行っており、12月には地域の防災訓練にも利用者3名と参加している。非難時は階下の職員の協力も得られ備蓄品も揃っているが、夏季停電時の熱中症対策としての電気システムに課題を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや対応に関しては、勉強会や研修会を開いたり、資料を通して利用者の誇りやプライバシー保護の意識を持てるようにしている。記録に関してはイニシャルを使用し人物の特定がしにくいようにしている。	「普段の生活で自分がされたくない事は利用者もされたくない」と職員に意識づけ、人格や誇りを損ねない言葉がけや接遇を心掛けている。入浴やトイレは同性介助を基本としているが車いす用トイレのカーテンの徹底を課題としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや今後の希望について表現しやすいように傾聴する姿勢を持ち、普段から利用者の希望が現実に向かうようにカンファレンスで話し合い、申し送り等で共有するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までどのように過ごされていたのか、一人ひとり思いをお聞きするようし、意思決定の尊重に努めている。体調を考慮し、その人なりのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理容に来てもらっており、本人の希望をお聞きしている。服装などは、できるだけ本人と相談して選ぶよう支援している。外出の際には前もって服を決めておくなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員と一緒に楽しみながらおやつ作りなどをしている。配膳、テーブル拭き、食器ふきなど、その方のできることをお願いすることで、力を発揮していただけるよう心掛けている。	盛り付けや準備、後片付け等、利用者の得意分野を担当して貰っている為か笑顔で一生懸命食器を拭いている人がいる。また、学童へのおやつや行事食作りを通して一人ひとりが生きがいを感じ職員と楽しみながら力を発揮できる場を提供し支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は配食サービスを利用しているが、食事の形態や今の状態にあっているかなどは、カンファレンスで話し合ったり、協力医療機関の医師と相談しながら決めており、水分量などは一人ひとりの状態を見ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の嚥下体操の他、声掛けや誘導、介助により一人ひとりの状態に応じた歯磨き義歯洗浄等の口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、パターンを把握し、カンファレンスや申し送りなどで情報共有をし、その方に合わせた支援を行っている。できるだけトイレで排泄してもらえるように声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	布パンツの人が半数近くおり基本的に時間誘導だが、日頃の観察から利用者の様子を見て随時誘導しトイレでの排せつ維持を支援しているため、日中のパット交換が減った事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンを把握し、職員間で共有している。個々に応じた運動や冷たい飲み物などを飲んでいただいたり、腹部マッサージを取り入れたりしてできるだけ自然な排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の気持ちやタイミングを尊重し、無理強いせず気持ちよく入浴していただけるように努めている。可能な限り湯船に入ってもらいゆったりできるよう心掛けている。	週2～3回基本的に午前中に入浴であるが、「思い」に寄り添い柔軟に対応している。ゆったりと入浴して貰うことで利用者の気持ちもほぐれお互いを理解し合える絶好の機会と捉え支援しており、職員との話を楽しみに入浴する利用者も多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態や体調に合わせ、居室やリクライニングチェアなどに誘導し、休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々に保管し、タブレットにも入力することで、いつでも確認できるように努めている。服薬の支援や症状の変化については、連携医療機関の医師や看護師、連携薬局の薬剤師に連絡相談し、適切な支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、生活歴や馴染の物などの把握に努め、日々の生活やケアに反映できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ、希望に添えるように努め、天気の良い日には散歩や外気浴などの支援を行っている。ご家族との外食も、体調や場所にもよるが、徐々に再開している。	避難経路の確認や花見の下見を兼ねての散歩や、小学生の下校時間に合わせた見守り散歩では児童との交流を楽しんでいる。家族との外食や帰省時には持ち物等の準備や調整により支援している。庭は無く駐車場は危ないのでベランダでの日向ぼっこやお茶会など外気に触れるれる楽しめる支援を検討中である。	郊外の無施設の一軒家のホームから一転し、エレベータや階段が自由に使えないが故の利用者の閉塞感を少しでも和らげるための外出や外気浴やベランダ利用のイベントの更なる工夫に期待が寄せられる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、ご家族・施設の方で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される場合には、能力に応じて職員が電話をし、おつなぎするようにしている。携帯電話をお持ちの方は、時間帯等に気をつけながら、番号の確認などの支援をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、TVの音量や室温などに気を付けて、安心してお過ごしいただけるよう対応している。湿度計・温度計を置き、適切な環境を作るよう心掛けている。	職員と一緒に春を待ちながら作ったつくしや蝶々や季節を感じる壁飾りの片隅に「春よ来い」の吹き出しがあり、利用者との語らいの種となっている。リビングの片隅には、ウォールラックで区切られた空間にリクライニングシートが置いてあり、一人のゆっくりしたそれでいて寂しくない時間が持てるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファやリクライニングチェアが置いてあり、ご利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。仲の良い方同士で過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた小物を自宅より持ってきていただくようお願いしている。必要に応じて、ご本人と相談しながら、配置を変える等気持ちよく過ごせるよう支援している。	入所前に家族に使い慣れた物や好みの物を持って来て貰うよう説明し、ホームで落ち着いて居心地よく暮らせるように援助しながら一人ひとりの好みに合わせて配置している。筆筒や昭和の置時計や置物など各々の個性が光る居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	必要などころに手すりを配置し、見守り移動ができるようにしている。居室環境もご利用者の身体状況に応じて、ベッドや衣装ケースなどを設置し、自立した生活を送れるよう心掛けている。		